

第 25 回 稲門建築会特別功労賞（業績） おおつか さとし 大塚 聡（苗 1979）

大塚聡さんは 1981 年に中川武研究室の修士課程を修了し、住宅産業の企業を経て独立し、住宅作家として活躍してきた。一方、当時の日本文化の中で最も重要な位置を占めていた演劇に強い関心を持ち続けてきた。日本演劇は 60 年代に登場した新たな演劇運動によって世界中の注目を集めたが、仮設のテントや喫茶店、倉庫などの空間を活用して新たな劇空間を創り出したことから「小劇場演劇」と呼ばれている。「小劇場」という空間を表す言葉がその時代の新しい演劇運動を総称する言葉であることに大きな意味があり、建築家と演劇人が交わるべき場であることがわかる。

大塚さんは、当時の演劇界を代表する唐十郎を筆頭に小劇場演劇の担い手たちとの交流を深め、彼らの活動する場の設計を手掛けるようになっていった。と同時に、公演作品の舞台美術も担当するようになり、唐十郎の弟子である金守珍の主宰する新宿梁山泊では「座付き建築家」として活躍している。さらに、金守珍が監督した映画「夜を賭けて」(2001 年)ではセットデザインを担当し、第 57 回毎日映画コンクール美術賞を受賞している。2010 年には映画でも多くの主演作品があるが、本来は小劇場の演劇人である柄本明の自宅兼アトリエも設計している。そして、2017 年にはかつてのエンタテインメントタウンである浅草六区に建つ、小劇場とサロンとホテルが複合する浅草九俱樂部を設計した。

また、広く建築界に向けた活動としては、日本建築学会関東支部が主催するシリーズ「建築のみかた」第 1 回の『劇空間を再考せよ』では、建築会館の中庭にテント劇場を仮設して、小公演やシンポジウムを行ったが、この企画と空間構成、シンポジウムのパネリストを務めた。出版においても 2013 年から「住宅建築」に『役者の棲み家』という特集を 2 年間にわたり連載し、小劇場演劇の担い手だった人びとや彼らが活躍した劇空間などを紹介している。この中には早稲田大学演劇博物館を紹介する回も含まれている。また、演劇博物館では企画展の空間構成やシンポジウムへの登壇など、早稲田建築と早稲田演劇をつなぐ大きな役割を果たしている。

最近の活躍の中には、昨年 12 月にシアターコクーンで上演された、唐十郎作、金守珍演出の「泥人魚」の舞台美術デザインがあるが、大塚さんがデザインした舞台で宮沢りえが熱演するというまたとない機会を実現し、アングラからメジャーへの進出を果たしている。

これらの早稲田大学建築学科で学んだ建築の知識や建築愛、そして、その後の建築家としての経験や知識に軸足を置きながら、異ジャンルの文化領域である演劇界にも貢献する活動の数々は特筆に値するものであり、早稲田大学の二枚看板である建築と演劇の両面において、その名を高く広めた業績は大きく、稲門建築会特別功労賞にふさわしい人物として推薦いたします。

推薦者 伊東正示（苗 S50、第 19 回 稲門建築会特別功労賞受賞）

プロフィール

- 1979 年

早稲田大学理工学部建築学科卒業
- 1981 年

同大学院建築史研究室修士課程修了
- 1990 年

大塚聡アトリエ級建築士事務所開設
- 2002 年

「夜を賭けて」の映画美術で第 57 回毎日映画コンクール美術賞を受賞
- 2009 年

シリーズ「建築のみかた」第 1 回『劇空間を再考せよ』（日本建築学会関東支部主催・建築会館中庭）メイン・シンポジウム『劇空間の理想』企画登壇＋空間構成
- 2011 年

「広場をつくる 広場を動かす 日本の仮設劇場の半世紀展」(早稲田大学演劇博物館主催)企画協力及び、「仮設劇場の魅力を読む一劇場構造の観点から」の対談に登壇
- 2013 年

住宅建築「役者の棲み家」連載 13 回(小劇場勉強会のメンバーとして)
- ～15 年

小劇場勉強会：1960 年代から始まった小劇場運動の第 1 次世代が物故・高齢化し、時代を画した小劇場もいくつか閉館しており、それらの資料や歴史が散逸しつつあるので、聞き取りや実測の調査を行う目的で発足。劇場・演劇に関心を持つ有志が集まり、劇場の用途以外の場所を劇場として使っている活動を記録しレポートを行う。
- 2016 年

特別展「あゝ新宿ースペクタクルとしての都市」展（早稲田大学演劇博物館主催）企画協力・会場デザイン及びカタログに執筆
- 2021 年

シアターコクーン「泥人魚」の舞台美術（作:唐十郎 演出:金守珍 出演:宮沢りえ・風間杜夫・磯村勇斗など）
- 1987 年

唐十郎氏の状況劇場・紅テント（現在・唐組）を経た役者たちが旗揚げし、やはりテント劇場での公演を主にする劇団・新宿梁山泊の座付き建築家としてテント劇場設計及び舞台美術デザインで協働
- 2011 年

韓国・ソウル斗山アートセンター
- 2017 年

韓国・ソウル大学路芸術劇場
- 2022 年

韓国・釜山 映画の殿堂・天空劇場 での公演においても舞台美術を担当



「あゝ新宿ー
スペクタクルとしての都市」展
(2016) 早稲田大学演劇博物館

映画「夜を賭けて」(2001)

新宿梁山泊「楽屋」

劇団 新宿梁山泊 紫龍テント

浅草九劇 (2017)

劇団 東京乾電池
アトリエ・乾電池 (2010)

「建築のみかた」第 1 回
『劇空間を再考せよ』(2009)
日本建築学会

シアターコクーン「泥人魚」(2021)

劇的
・
展覧
レポート

美術

建
築

「夜を賭けて」の映画美術で第 57 回毎日映画コンクール美術賞を受賞

「あゝ新宿ー
スペクタクルとしての都市」展
(2016) 早稲田大学演劇博物館

新宿梁山泊「楽屋」

浅草九劇 (2017)

劇団 東京乾電池
アトリエ・乾電池 (2010)

「建築のみかた」第 1 回
『劇空間を再考せよ』(2009)
日本建築学会

シアターコクーン「泥人魚」(2021)